

# OCHADAI GAZETTE

お茶の水女子大学学报 第222号 2009年11月7日

OCHADAI GAZETTE Autumn, 2009



## 伝統と想いを紡ぐお茶の水女子大学 新制大学60周年記念式典を開催

### CONTENTS

#### TOPICS

新制大学開学60周年.....	1	キャンパス点描.....	9
新制大学60周年記念式典、 第3回ホームカミングデイを開催	5	湯浅年子生誕100年記念企画実行委員会の活動 2009年度グッドデザイン賞を受賞 2009オープンキャンパスを開催	
教員紹介.....	7		
元岡展久先生 (大学院人間文化創成科学研究科 自然・応用科学系)			



お茶の水女子大学  
Ochanomizu University

# 新制大学開学60周年

本学は、今年、新制大学開学60周年を迎えました。

戦後の荒廃から立ち直り、いち早く女性の教育を再開しえたのは、  
当時、本学の教育に携わっていた教職員の献身的な努力と、何より、

戦後の日本社会の新生を担うべく、学問への情熱を持ち続けた

本学在学学生たちの強い意志、そしてそれを支えた卒業生の思いゆえと言えます。

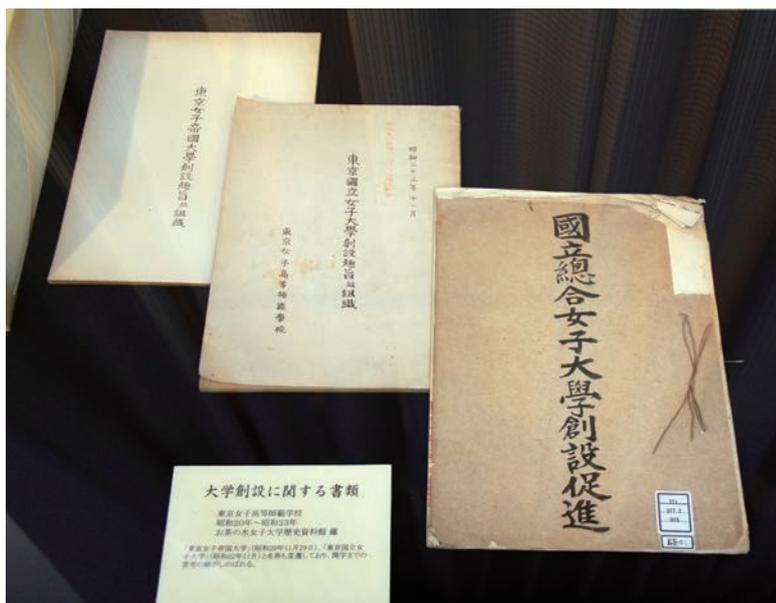
以下、『お茶の水女子大学百年史』（「お茶の水女子大学百年史」刊行委員会、1984）

によりながら、新制大学開学時を振り返ってみましょう。

## 1 新制大学の発足およびその経緯

戦後まもない1945（昭和20）年秋、東京女子高等師範学校は「旧制の大学令に基づく国立女子大学の設立計画」を立てました。当時の教官たちによる連日連夜の協議になるものでしたが、「文部省省議」は通ったものの「大蔵省段階で国費不足の理由でさし止め」となりました。その後、46年の教育刷新委員会の設置、「女子教育研究会」設立、47年の大学設置準備委員会の設置等を経て、1949（昭和24）年、国立学校設置法の公布により、国立新制大学の一としてお茶の水女子大学が設置されました（初代学長・野口朗）。他校との合併の可能性を廃し、単独昇格を果たしえたのは、当時においてすでに70年を越える女子の最高学府としての伝統と社会への貢献を有していたことに加え、東京女高師教授会、また卒業生の情熱に後押しされてのことでした。設置時は文学部・理家政学部の二学部でしたが、翌50（昭和25）年には文教育学部・理学部・家政学部の三学部となりました。

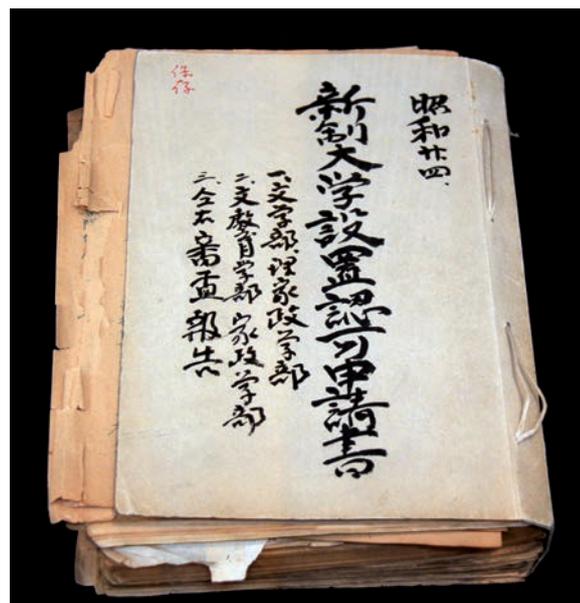
なお、茶の花に「大学」と記した大学徽章は、50年、学生投票によって決定されたものです。



『東京女子帝国大学創設趣旨並組織』（昭和20年11月29日）

『東京国立女子大学創設趣旨並組織』（昭和22年11月）

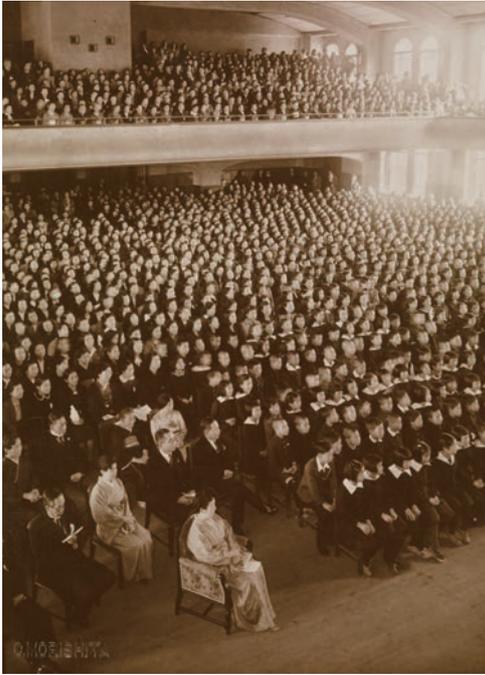
『国立総合女子大学創設促進』（昭和23年2月5日）



「新制大学設置認可申請書」（昭和24年）

## 2 開学式 (1949年11月5日)

1949 (昭和24) 年は、1875 (明治8) 年の東京女子師範学校創立から75年目にあたり、また新制大学お茶の水女子大学開学の年でもあったことから、11月5日、皇后を迎えて「東京女子高等師範学校創立七十五周年お茶の水女子大学開学記念式」が挙行されました。当日は在學生に加え、500名近くの桜蔭会員が参加しました。本学の新しい門出を祝すかのごとき快晴に恵まれたといえます。



記念式に続いておこなわれた学芸会の様子



本館内を歩く香淳皇后



装飾された正門

新制大学開学60周年

# 新制大学開学60周年



お茶の水女子大学長宛て宮内庁長官通知（昭和24年10月15日）  
 「皇后陛下お茶の水女子大学において挙行の創立七十五周年並びに同大学開学記念式へ行啓の節賜れる御言葉」



「東京女子高等師範学校創立七十五周年お茶の水女子大学開学記念式次第」  
 「式典並祝賀会概要」  
 「東京女子高等師範学校創立七十五周年お茶の水女子大学開学記念絵葉書」

## 3 附属校園の変遷

新制大学設置に先立ち、1947（昭和22）年3月、学校教育法が公布されたのをうけて、4月より新学制に基づいて、戦時中附属国民学校となっていた小学校が再び附属小学校という名称に戻り、また附属中学校が開設されました。男女共学を原則とする新学制の精神を尊重し、とくに義務教育段階である中学校までは共学とすることが決定されました。一方、附属高等学校は、これまでの附属高等女学校の伝統を受け継ぎ、女子だけの学校として48（昭和23）年4月に設置されました。

附属幼稚園は、戦争激化のため、1945（昭和20）年3月にいったん閉園となりましたが、同年11月より保育を再開しました。

こうして本学は、幼稚園から高等学校にいたる各階梯の附属校園を同じキャンパス内に有する、全国でも数少ない環境を備えた新制大学として発足することとなったのです。



「お茶の水女子大学開学記念東京女子高等師範学校創立七十五周年アルバム」

## 4 徽音祭



徽音祭パンフレット（昭和36年～平成20年）

第一回徽音祭は、1950（昭和25）年に開催されました。しかし、その起源は、46年に開催された文・理・家政・体育各科競演の演劇祭にあるようです。このとき、在校生の圧倒的な支持により、講堂・徽音堂に由来する「徽音祭」との名称が決定されたとのこと。以来、現在にいたるまで、徽音祭は学生たちのさまざまな活動の発表の場として、年々華やかさを増しながら、一度もとだえることなく開催されています。

（以上、文責・菅聡子）

# 新制大学開学60周年

# 新制大学60周年記念式典、 第3回ホームカミングデイを開催



60周年記念式典で挨拶する羽入佐和子学長

10月10日（土）に、新制大学60周年記念式典、ならびに第3回お茶の水女子大学ホームカミングデイを開催しました。

記念式典には約150名の参加者を得て午前10時より始まり、羽入佐和子学長の挨拶の後、小松親次郎文部科学省大臣官房審議官（高等教育局担当）、板東久美子文部科学省生涯学習政策局長（前内閣府男女共同参画局長）、成澤廣修文京区長、本学同窓会三浦良子桜蔭会会長からご祝辞を賜りました。

引き続き、本学の発展に多大な貢献をされた方々に名誉学友記及び感謝状の贈呈がおこなわれました。

式典後に大口勇次郎名誉教授による記念講演会「お茶の水女子大学の60年—新制大学から国立大学法人化まで—」がおこなわれ、戦前の大学昇格運動や、戦後の動きとして東京女子帝国大学計画、女子大学の設立、国立の新制大学発足、お茶の水女子大学の事情（単独の女子大、学芸大か専門大か）、研究大学としての歩み、国立大学法人化、課題として残した問題など、貴重なお話を伺うことができました。



式典挨拶 成澤廣修文京区長



式典挨拶 三浦良子桜蔭会会長



式典挨拶 板東久美子文部科学省生涯学習政策局長  
（前内閣府男女共同参画局長）



式典挨拶 小松親次郎文部科学省大臣官房審議官  
（高等教育局担当）



記念講演会 大口勇次郎名誉教授「お茶の水女子大学の60年」



校歌「みがかずば」合唱 文教育学部芸術・表現行動学科音楽表現コース

在学生による  
キャンパス  
ツアー



利谷信義名誉  
教授による講演  
「家族の行方」



化学科・桜化会  
共同企画講演会  
平井崇子氏  
による講演



歴史資料館を  
見学する  
卒業生



講演後に、参列者全員による本  
学校歌「みがかずば」を合唱し閉  
会となりました。

午後の部として、学部・学科・コー  
ス企画による第3回ホームカミン  
グデイが開催され、卒業生の方々  
は母校を懐かしんでいました。

このほか、歴史資料館特別公開、  
卒業アルバム特別公開、在学生に  
よるキャンパスツアー、大学グッ  
ズ販売などが催されました。

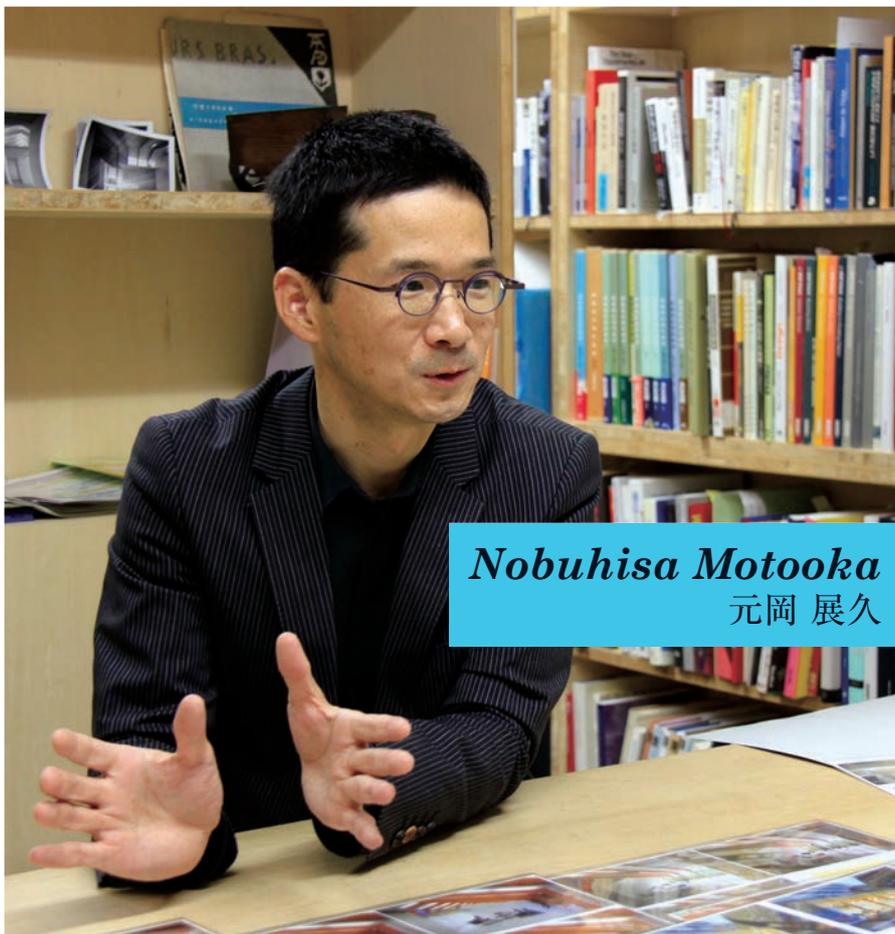
## 新制大学60周年記念式典、 第3回ホームカミングデイを開催

# 教員紹介

## 建築・都市空間の「美」を追求する研究

第8回目の教員紹介では、人間文化創成科学研究科自然・応用科学系准教授の元岡展久先生をご紹介します。

元岡先生は、大学院ではライフサイエンス専攻、また、学部では生活科学部人間・環境科学科ご所属で、建築設計学をご専門とされています。今回は先生のご研究にあわせて、最近、グッドデザイン賞を受賞されたユビキタスコンピューティング実験住宅「Ocha House」についてお話を伺いました。



**Nobuhisa Motooka**  
元岡 展久

今やっていることが、すぐ何かの役に立つという  
目先の結果に先走るのではなく、逆に役立つことを見つかるぐらいの気持ちで、いろいろなことに  
興味を持って接して欲しいですね。

**Q.** 先生のご専門は何ですか。

**A.** 建築設計、いわゆる建築デザインが専門です。建物を作るときにはさまざまな条件があります。たとえば、耐震性の高い安全な建物にしたい、子

も部屋はいくつ欲しい、明るい家にしたい、でも予算には限りがあるし、土地も大きくない。そうしたいろいろな条件を考えながら、目的にあった建物を作るプロセスが建築デザインの専門家の仕事です。

建築の分野は、大きく分けて、建築構造、建築材料、建築計画（人間の行動や用途にあった建築を考える）、環境設備（空調や電気、衛生設備）、建築史などがあります。これら、各専門分野の意見を整理し、総合して建物をつくりあげていくのが建築デザインの役割です。だから、建築デザインの専門家が「こういう建物を建てたい」というアイデアを最初に描いていないと、プロジェクトが進まないですね。

**Q.** 先生の研究室ではどういうことをテーマとされているのですか。

**A.** 簡単に言うと、「美しい建築とは何か」ということを考えていく研究室です。歴史的な建築物やある地域の建築物から、「美しい」とか「後世に影響をあたえた」と思われる対象を見つけ出し、調査します。なにが美しいのか、なにが影響を与えたのかについて、類似例を比較しつつ、共通する建築的特徴を探します。そして、その特徴と当時の社会や思想などとの関連を明らかにしていきます。「どうあれば美しいのか」「なぜそのような建物が建てられたか」という分析から得られた知見を、今後、新しい建物を作っていくときに生かしていく、これが私の研究テーマです。

先ほども言ったように、建物を作るときには、さまざまな条件がかかります。これらの条件に優先順位をつけて考えていくわけですが、その基準は、社会や技術、経済の状況によって変わります。歴史やフィールドの調査によつ

て、建物がなぜそのように建てられたのかという背景が見えてきます。そこからどういう考え方で建築を創造していくべきかを研究するのは、将来の建築物のあるべき姿を思い描くためにも、必要なことなのです。これが、大学に建築デザインの研究室がある意味かもしれませんね。

## Q. 最近、取り組まれているご研究は何ですか。

**A.** ユビキタスコンピュータを使った未来型住宅のプロジェクト<sup>※1</sup>を理学部情報学科の先生方と共同ですすめています。実際に住宅を建設し、その中に、生活を支援するユビキタス情報機器を入れ、実際の生活の中で実証していくという研究をおこなっています。「Ocha House」というこの住宅は2009年3月に完成し、この10月には、グッドデザイン賞<sup>※2</sup>を受賞しました。

※1 ユビキタスコンピューティング実験住宅「Ocha House」:「女性が進出できる新しい研究分野の開拓」事業の一環である「生活者の視点を重視したユビキタスコンピューティング住宅の研究」のなかで計画、建設された住宅。生活を対象としたコンピューティングのための実験住宅建設は、国内の大学では初めての試みです。

※2 グッドデザイン賞:1957年に通商産業省(現経済産業省)によって「グッドデザイン商品選定制度(通称Gマーク制度)」が創立されました。現在、財団法人日本産業デザイン振興会がひきつぎ、豊かな生活と産業の発展を求め、毎年優れたデザインを選定し「グッドデザイン賞」を与えています。

## Q. 最後に、お茶大生にメッセージをお願いします。

**A.** 学生さんには、発想力豊かな人になって欲しいですね。たとえば、建築デザインでいうと、どういう建物を作りたいかというイメージが最初にないと建物はできません。与えられた課題について、調べることはできても、オリジナリティーあるアイデアを発想するのが苦手な人が多いように思います。そうしたアイデアは、日頃からいろいろなことに興味を持つということではないでしょうか。今やっていることが、すぐ何かの役に立つという目先の結果



に先走るのではなく、逆に役立つことを見つけるぐらいの気持ちで、いろいろなことに興味を持って接して欲しいですね。

### インタビューを終えて

建築について知識のない私に対しても、丁寧にわかりやすく、ご専門についてお話をいただきました。元岡先生のお話を伺い、どういう人がどういう想いで、この建物を作ったのだらうと、建築物を見る目が少し変わりました。未来型住宅「Ocha House」の今後も楽しみです。みなさまも、機会があればぜひ訪れてください。

聞き手: 赤松 利恵  
(人間文化創成科学研究科自然・応用科学系 准教授)



ユビキタスコンピューティング実験住宅「Ocha House」

**教員紹介**  
建築・都市空間の「美」を追求する研究

# キャンパス点描

## ■ 湯浅年子生誕100年記念企画実行委員会の活動



今年が湯浅年子生誕100年にあたります。「湯浅年子生誕100年記念企画実行委員会」は、年子の生誕100年を祝い、これからの若い世代として彼女の精神を受け継いでゆくことを目的とし設立された、学生主体の有志団体です。

日本女性初の国際的物理学者である湯浅年子（1909–1980）は、お茶の水女子大学の大先輩です。本学の発足に携わり、日本における女性教育の発展に大いに尽力しました。彼女は男女差別の厳しい日本において物理学を学び、第二次大戦の最中、遠い外国の地で研究の道を切り開きました。その後は、人生の大半をフランスでの研究活動に費やし、晩年には原子核実験における日仏の公的な共同研究の実施に尽力して、臨終の間際まで続いた奮闘の末にその実現を叶えています。その一方で、美しい絵画や詩歌を数多く残しています。その生き方には、私たちが学べるところが多くあるに違いありません。

### これまでの活動

記念イベントのプレイベントを7月29日に開催しました。第一部では、学生による年子の年表・スライド上映をおこない、年子の人生や、そのスケッチ、詩歌などを紹介しました。第二部では、年子の後輩の山崎美和恵先生をお招きし、年子の研究活動や多彩なエピソードについて講演していただきました。イベント後のアンケートでは「湯浅先生のことを多面的に知ることができた」、「湯浅先生に関するイメージが広がった」等、参加された方々に年子について興味を持っていただくことができました。学生による司会やスライド上映も大変よい評判でした。

また、9月26日におこなわれた、「湯浅年子生誕百年記念メモリアル・カンファレンス」（湯浅年子生誕百年記念メモリアル・カンファレンス主催）に参加し、プレイベントで好評だった年表とスライドを上映しました。このイベントでは、年子の師であるフレデリック・ジョリオ＝キュリー教授の娘で原子核物理学者のエレーヌ・ランジュバン＝ジョリオ教授が来日し、年子とキュリー



家の関わりについて講演されました。また年子を直接知る方々によるリレートークがあり、先生の人柄がさまざまな目線から語られました。

## 徽音祭にて生誕100年記念イベントをおこないます

『21世紀を担う若者たちへのメッセージ—湯浅年子から若い世代へ—』と題したイベントをおこないます。第一部「年子に迫れ!」では、年子の若い時代の壮絶なエピソードや、彼女の絵画等から、年子とはいったいどのような人物だったのかに迫ります。

第二部「年子に続け!」では、科学者として国際的に活躍されているお茶大の先輩方や、湯浅年子奨学金を獲得した方々にインタビューをします。同時に、年子に関する貴重な資料、パネル展示もおこないます。イベントの後に懇親会も予定しています。

**日時:** 11月8日(日) 14:00~17:30 (開場13:00)

**場所:** お茶の水女子大学人間文化創成科学研究科・全学共用研究棟 6階大会議室

**主催:** 湯浅年子生誕100年記念企画実行委員会

**後援:** お茶の水女子大学理学部、お茶の水女子大学理学部物理学教室、お茶の水女子大学ジェンダー研究センター

## ■ 2009年度グッドデザイン賞を受賞

### ユビキタスコンピューティング実験住宅“Ocha House”が 2009年度グッドデザイン賞（生活領域／戸建住宅・集合住宅）を受賞

Ocha House（お茶の水女子大学ユビキタスコンピューティング実験住宅）が、グッドデザイン賞（生活領域／戸建住宅・集合住宅）を受賞しました。グッドデザイン賞は、財団法人日本産業デザイン振興会が主催する日本で唯一の総合的なデザイン評価・推奨制度で、世界でも有数の歴史と実施規模を誇るものです。

Ocha House は、本学大学院人間文化創成科学研究科椎尾一郎教授、太田裕治准教授、元岡展久准教授らが中心となって取り組んでいる「生活者の視点を重視したユビキタスコンピューティング住宅の研究」のなかで計画された住宅です。ユビキタスコンピューティングの利用を実証するための実験住宅として、本学小石川地区に2009年3月に完成しました。設計は本学元岡展久准教授と河野泰治アトリエとの共同でなされました。Ocha House は、生活者の視点から生活にユビキタスコンピュータを取り入れることを試みるもので、こうした実験住宅の建設は、国内の大学では初の試みです。

Ocha House では、生活スタイルに応じてコンピュータ機器を自由に住宅に取り入れるという、情報技術と住宅の新しい関わり方を提案しています。技術と生活を結びつけるため、住宅の自由度を高める「パネルフレー



ム構法」を開発し、シンプルで一体的な空間を実現しています。間伐材を利用した「パネルフレーム構法」は、森林保全や、建物の長寿命化においても有効な新しい構法です。

審査員からは、「国産材を使ったパネルフレーム構造によって、開放的でフレキシブルな空間をつくり出している。屋根と外壁をフレームから浮かせたディテールも興味深い」との評価をいただきました。

Ocha House の概要はこちらのHPをご覧ください <http://ochahouse.com/>

## ■ 馬場幸栄さん（比較社会文化学専攻・文化マネジメント論）が 2009年度グッドデザイン賞（ネットワーク領域／デジタルコンテンツ）を受賞

馬場幸栄さんがディレクションと基本設計を担当した『実業史錦絵絵引』というデジタルコンテンツが、グッドデザイン賞（ネットワーク領域／デジタルコンテンツ）を受賞しました。

「錦絵を使って、実業の歴史をビジュアルに楽しく学べるオンライン・コンテンツを作ってほしい」という依頼を財団法人渋沢栄一記念財団実業史研究情報センターから受けた馬場さんは、ディレクター兼設計者としてプロジェクトに参加し、国立情報学研究所連想情報学研究開発センターと特定非営利活動法人連想出版の技術協力を得て、『実業史錦絵絵引』という新しいウェブサイトおよびデータベースを開発しました。

2009年7月から一般公開されている『実業史錦絵絵引』は、Flashを用いた直観的インターフェースを採用しており、スクリーン上の錦絵の一部をクリックしたり、あるいは検索画面で文字列を入力したりすることによって、明治期の職業・道具・建築・衣装・風俗などに関するさまざまな歴史的・図像学的情報を言葉と図像の双方から学べるようになっています。

審査員からは、(錦絵を)「本来のニュースメディアとして、歴史データとして読むために考えられた工夫やインターフェースが良い」との評価をいただきました。

実業史錦絵絵引の概要はこちらのHPをご覧ください <http://rensou.info/ebiki/>  
実業史錦絵絵引はこちらのHPをご覧ください <http://ebiki.jp/>

## ■ 2009オープンキャンパスを開催



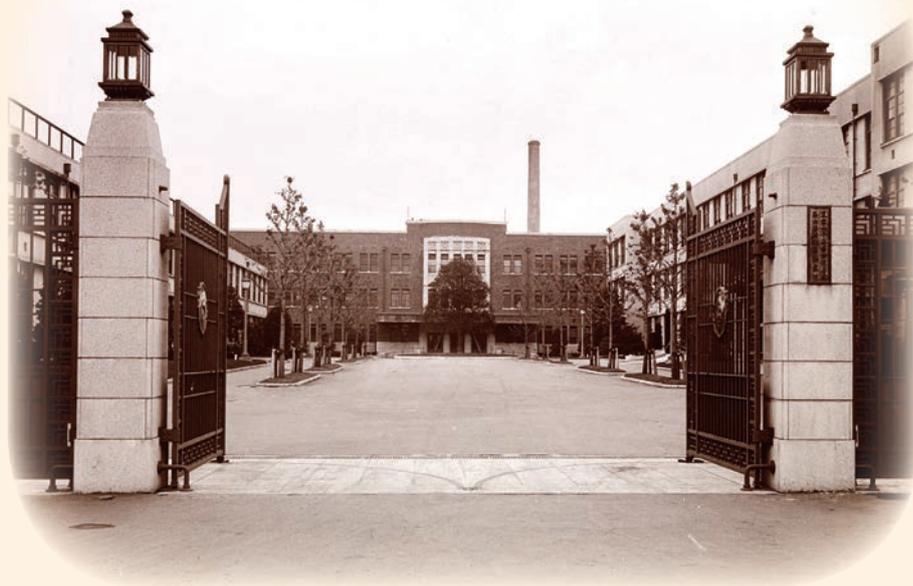
7月19日と20日にオープンキャンパスを開催しました。

猛暑にもかかわらず、多くの受験生やご家族の方々にご参加いただき、19日の生活科学部（午前）・理学部（午後）には約

2,400名、20日の文教育学部には約2,000名の来場者がありました。

羽入佐和子学長から「躍進するお茶大」の紹介と受験生へのメッセージが送られたほか、各学部の教員や在学生によるカリキュラム説明会や模擬講義、入試や大学生活に関する個別相談会がおこなわれるなど、熱気に満ちた2日間となりました。

# キャンパス点描



お茶の水女子大学学报 第222号

▽発行日：2009年11月7日

▽発行：国立大学法人お茶の水女子大学

東京都文京区大塚2-1-1（〒112-8610）

ご意見・ご感想はこちらまで

学術・情報機構広報チーム

電話 03-5978-5105

FAX 03-5978-5545

E-mail : [info@cc.ocha.ac.jp](mailto:info@cc.ocha.ac.jp)

URL : <http://www.ocha.ac.jp/>